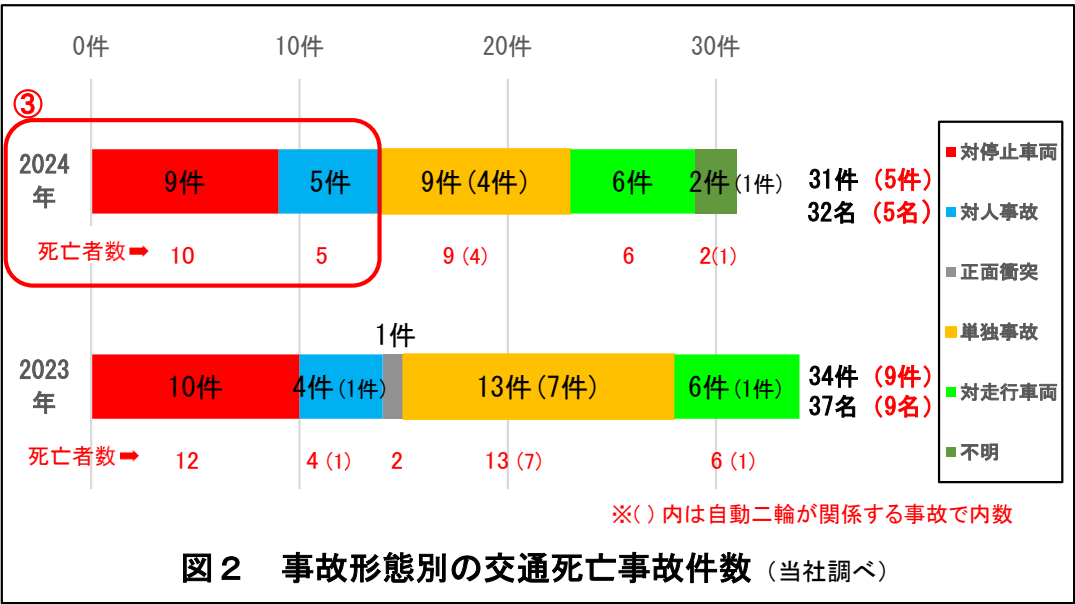
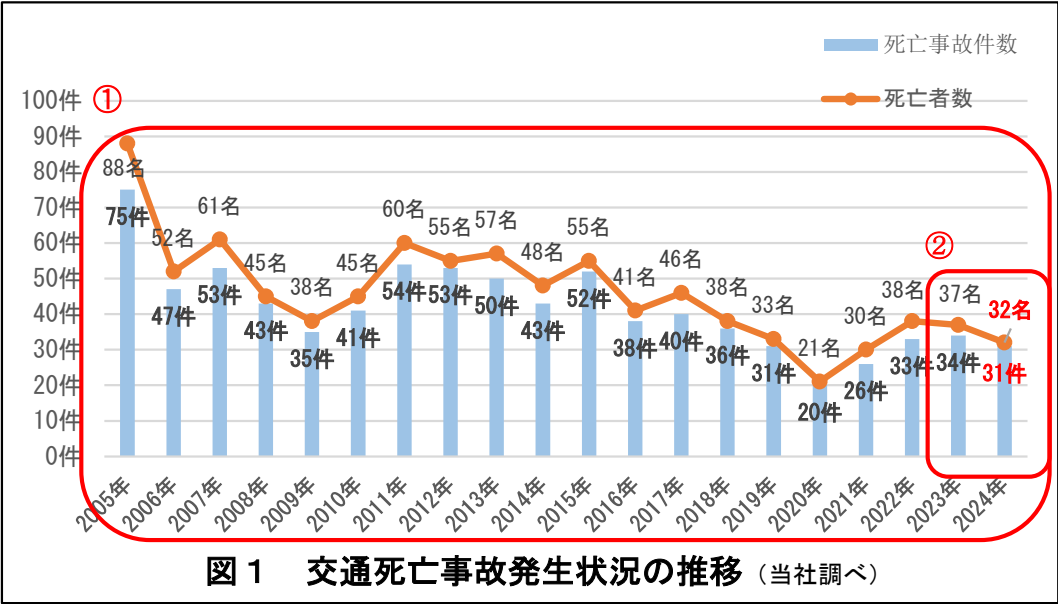


2024年における交通死亡事故の発生状況

当社管内で2024年(1月1日～12月31日)に発生した交通死亡事故について取りまとめました。(NEXCO中日本調べ)

- ① 過去20年の交通死亡事故件数、死亡者数の傾向は、2019年まで減少、2020年はコロナウイルス感染症拡大による交通量の減少により大幅に減少しましたが、収束に伴う交通量の回復により死亡事故件数は2023年まで一旦増加しています。
(図1参照)
- ② 2024年の死亡事故件数は31件、死亡者数は32名で、2023年と比べ、件数は3件、死亡者数は5名減少しました。(図1参照)
- ③ 交通死亡事故の形態は、高速道路上で停止している車両や人と衝突する事故が全体の約半数(14件15名)を占めました。
(図2参照)
- ④ お客さまには、高速道路上には何らかの原因で「停止車両」や「人がいる」可能性があることを意識いただいた上で、運転をお願いいたします。また、事故や故障などで高速道路上でやむを得ず停止した場合は、後続車への合図、路上に立たない、車内に残らない、安全な場所への避難、その後110番等への通報、を併せてお願いいたします。



安全安心な高速道路を目指した交通事故防止の取り組み

1. 交通事故防止対策

① 事故多発区間における集中的な対策の実施

- ・ 2019年12月に策定した「高速道路の安全・安心実施計画」に沿って、事故多発41区間における対策を2024年末までに完了
- ・ 主に視線誘導標やカラー薄層舗装などの対策を実施した結果、**対策実施前の2018年と比較して事故率は13%削減(図3参照)**
- ・ 今後もETC2.0プローブデータの有効活用など、多角的な事故分析および対策の詳細結果を検証し、より効果的な対策の実施につなげる予定

② 交通情報を音声でお知らせする「みちラジ」の機能拡充と周知のお願い(図4参照)

- ・ 2022年4月より当社管内全域でのサービスを開始。スマホのGPS機能を活用することで車両の任意の位置情報を把握し、進行方向の交通情報をタイムリーにお知らせ。具体的には、インターチェンジの約4km手前到達時に、その先の交通規制、気象、休憩施設混雑状況等の情報を提供
- ・ 2023年には、渋滞や落下物などの突発事象発生箇所および過去に事故が多発している箇所の約2km手前で注意喚起する機能も拡充
- ・ 2024年以降も、安全運転を支援する機能拡充を進め、ユーザー数のさらなる拡大を企図⇒**マスコ関係者の皆さまから幅広く周知いただければ幸い**

2. 交通安全啓発活動

- ・ 警察やトラック協会等と連携し、サービスエリア等で延べ99回の交通安全キャンペーンを実施。二輪車の事故が昨今多いことから、二輪車向けの安全啓発を実施
- ・ 高速道路上の停止車両や工事規制内への衝突事故が多発している状況をふまえ、**SNSを活用した安全啓発のための広報を強化(図5参照)**

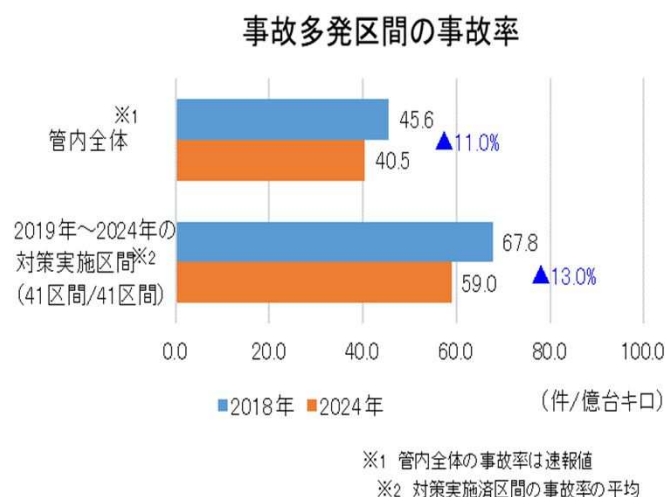


図3. 事故多発41区間における事故率の比較

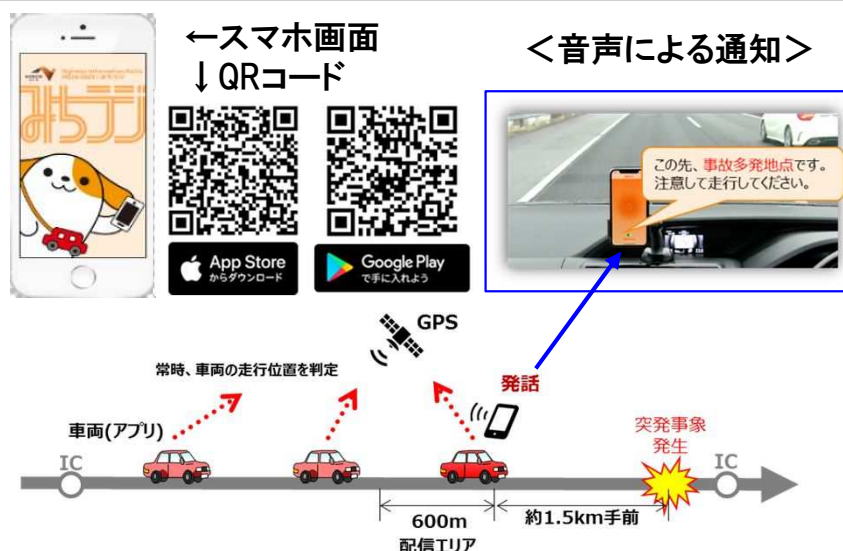


図4. みちラジのイメージ等



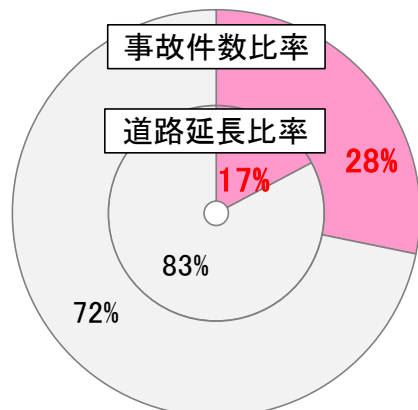
図5. SNSによる安全啓発

<参考>交通事故防止の具体的な取組み事例等

□ 事故多発41区間の道路延長と事故件数の比率(2018年データ⇒全体の約3割)と対策例

管内供用延長：2,078km(2018年12月末時点)

事故件数：13,595件(2018年1月～12月)



■ 事故多発41区間 □ その他の区間



写真 視線誘導標の設置
中央道 岡谷IC(2024年3月対策完了)



写真 カラー薄層舗装の施工
中央道上り 松川～飯田(2024年9月対策完了)

□ 交通安全キャンペーン



□ 第3回名古屋モーターサイクルショー2024へ自動二輪交通安全ブースの出展

